

## ○タウンミーティング議事録(概要)

日 時:令和3年10月13日(水)

午後7時から午後8時45分まで

場 所:山田公民館 体育室

出席者:48人

### テーマ 第2次富山市総合計画後期基本計画(案)について

#### 【テーマの説明に対する質問】

・学校再編について、山田地域では自治振興会、教育振興会が協力して、昨年、市長あてに義務教育学校の設置と特認校の指定を要望しました。10月15日に市の素案が発表されますが、山田地域から小中学校がなくなると地域の崩壊にもつながりかねませんので、ぜひ小中学校の存続をお願いします。

また、おでかけ定期券について、市民病院には100円で行けますが、それより近い速星の病院に行くのには500円かかるというような状況です。せつかくの制度を有効に使えるようにしていただけると嬉しく思います。

(市長)

小中学校の再編につきましては、近々、その再編方針を発表しますが、それは学級数や生徒数に応じて、文部科学省の一定の物差しに合わせて、画一的に発表するものです。ですから、今までヒアリングを行ったことと、発表するものを合わせて、これから皆さんと協議をしていくということになります。今までいただいた要望等については、今後也十分、それとは別に議論の中に入れていくという形になります。ですので、発表したら決まるということは絶対ありませんので、それは安心していただきたいと思います。

また、市民病院まで行くと100円で済むのに、速星で降りると500円、600円かかると

というのは事実です。これは、ひとつに出かける機会を増やして欲しい、お得にまちの中まで来て欲しい、というような施策であるため、このような料金体系になっています。もうひとつは、富山地方鉄道さんに財政的に支援していただいている部分があるということもあります。しかし、そういう意見も多々伺っておりますので、受け止めて、部内でも精査していきたいと思っております。

・総合計画中の賑わいと交流の都市空間の整備充実の中で、魅力ある都市景観の形成ということで、街路景観を演出するハンギングバスケット、バナーフラッグの設置などがあります。私は市職員として長い間この事業に携わってきました。ハンギングバスケットやバナーフラッグは、当初、何も無い中から考え、最初は市役所の庁舎の壁に、それから当時の駅北のライトレールの駅にフラワーハンギングバスケットを設置したというのが始まりです。

今、駅北の整備事業をするということですが、そこにあるケヤキは平成10年に北陸電力、北陸銀行、富山第一銀行、造園業者など様々なところの協賛や寄付金をいただき植えたものです。それを今、再整備で3分の1の本数にすると提案されています。先ほどの経緯も踏まえ、何とかケヤキを残したままで再整備を、この総合計画に載っている大事な魅力ある都市の形成ということからも含めて、どうか素晴らしいケヤキの並木を残してください。

(市長)

駅北の再整備の基本設計は、既にでき上がってしまっており、私が着任した時は既に今の計画に決定しておりました。ケヤキの件については、今おっしゃったようなご意見が多々あることも後から知ったわけですが、しかし、北陸電力さんや今おっしゃったこの整備に寄付をいただいた方々のご意見で再整備の計画が進んでおり、このエリアは、再整理した後も、ここにある企業や団体などで作るまちづくりの運営事業体で自主運営していく広場になります。そしてまさにその設計図を承認されたのが、北陸電力さんなり、

オークスカナルパークホテルさんというわけです。そこで、一番問題なのがムクドリの問題です。これは現在もひどい状況で、枝をばっさり切って、ある程度何か対策をすればということもありますが、そのムクドリによって、ホテルの前が糞だらけになるということもおきています。ですので、相当悩まれた結果、木を間引くことも含めた現在の基本計画に企業の皆さんが最終的に承認されたということだと思います。一度決定したものをひっくり返して木を残すということは、私の一存では言えませんので、こういう意見があったということを伝えたいと思います。ただ、冒頭に申し上げたとおり、計画が決定しているものをひっくり返すというのは、なかなか厳しいと思っていますが、そのような経緯があって、今の素晴らしい緑の景観があるということを肝に銘じておきたいと思います。

・山田地域は人口がどんどん減っており、40年後には今1300人いる人口がわずか380人ほどになるのではないかとこの予測も出ています。これは何もせずに放っておいたらそうなるのであり、何か対策をしていくことによって、少しでも人口減少を食い止めることができるのではないかと思います。

その一つとして、このような中山間地域に都会から若者を呼び込んで、来てもらいたいと思うのですが、山田に来て家を建てたいと思っても、建てる場所がないとよく言われます。山田村時代に住宅地を7件か8件ほど設定したところ1年間から1年半の間に全部埋まってしまいました。第二次的にもっとやるという話もありましたが、合併ということになり、その後その話は頓挫しています。住宅地の造成は民間のやることではないかと言われますが、民間の業者が山田地域に来てそういうことをやることほとんどないので、都会などから移住者を山田に呼び込むためには、住んでもらえる場所をまず作ってもらうことが人口減少対策にもなるのではないかと思います。

もう一つ、私たち山田地域でも畑地を相当に抱えております。水田におきましては、水田活用という交付金、直接支払いのお金が交付されますので、農家はその水田活用をものすごく頼りにして農業をやっています。しかし、この畑地におきましては、今のところ全く交付金などがない。私のところは特に啓翁桜、じゃがいも、大根などを作っ

ていますが、そのような補助金が全くないので、次第に荒れていくという状況です。ですから、農業はもう米以外のものにシフトしていかないとやっていけないという時代ですので、畑地にも水田活用並みの何か助成金をもらえるような仕組みができないかと考えております。市独自では難しい話かもしれませんが、いろんな上の方と連携しながらでも、何か一つ考えてもらえないかと思います。

(市長)

非常に難しい、しかし、重要な問題だと思います。

都市部から人を呼び込むことについて、山田地域は魅力的なところであり、このコロナ禍も相まって、こういう中山間地域というか、豊富な自然が残っているところで仕事ができるような環境になってきたことから、居住してみたい、移り住みたいというニーズがあることも事実です。そのようなことも富山県と協力しながら、どうやったら移住していただけるのかも含めて、鋭意取り組んでいきたいと思います。

今年、地域おこし協力隊として神戸から1名、入居していただきましたが、アイデアマンですので大いに期待しております。しかし、根本的には、やはりここに居住して、ここに生活してもらう人が増えることが大事です。それともう一つは、ここで生まれ育った方々が山田に住んでもらうということも大事ですので、そのようなことも皆さんと知恵を出しあって一緒に考えていきたいと思います。

交付金の件は何度もお話をお聞きしておりますし、県議会でも取り上げられたりしておりますので、しっかりと受け止めて、何かいい方法はないか、放棄田や放棄地を増やさない対策にもなりますので、少し考えさせていただきたいと思います。

・今日のタウンミーティングに大変期待を持って来ましたが、お話は富山市の大変大きな構想で大変素晴らしいとは思いますが、できることであれば、もう少し地域の実情をリサーチして、具体的に私たちが理解できるようなタウンミーティングをして欲しいと思いました。

ひとつお答えしていただきたいことは、私どもは持続可能な地域づくりということで、自主防犯団体を設立いたしました。8月に始めて、現在、地域のシニアの方や女性の方が、改めて防犯パトロールをするのではなく普段の通常的生活の中で地域内を見てくださいっています。よく見ていただいていると思います。これに関して、資料の中に自主防犯団体への支援とあります。地域が元気になるには私たちが知恵と協力をしながらなんですが、何をするにも、やはりお金がかかります。このようなことで、例えばひとつ自主防犯団体への活動補助金の交付とありますが、私たちのような小さな団体にも支援があるのかお聞かせください。

(市長)

生活安全交通課の方に確認してお答えさせていただきます。

(後日回答)

#### 【自主防犯団体への活動補助金について】

本市では、地域における安全なまちづくりに関する自主的な活動を行う団体に対し、地域の犯罪情勢についての講演などを行う研修会を開催するほか、組織の活動に要する経費に対して、年額3万円の補助金を交付しており、新規に組織を立ち上げられる場合には、結成時に要する経費に対して年間5万円を交付しております。

補助の要件としましては、複数の町内会又は300世帯以上が参加する組織で、年間を通じて、月2回以上の地域パトロールを実施することとなっております。

現在、山田地区では、山田防犯パトロール隊が活動しておられます。お尋ねの自主防犯団体が上記の要件を満たしていれば、補助の対象となりますので、詳しくは、生活安全交通課にお尋ねください。 <回答担当課>市民生活部 生活安全交通課

・2年前まで山田地域にも社会福祉協議会の支部があり、そちらで老人クラブの事務などをしていただき、関係する書類や器具などを預かっていただいていたいました。それが、

社会福祉協議会の支部が八尾に吸収されたことで事務局をやりなさいということで、現在私がやっています。所長が変わる時に、もうここには事務局がないから荷物を全部持って行ってもらわないと引き継ぎができないということを言われましたが、持って行きようがないので会長である私の家の倉庫、それから副会長の家の倉庫と、あちこちに分けたような形になっています。そうしなくても旧役場に部屋がありましたし、ここ(山田公民館)にも部屋がいくつも余っています。老人クラブの部屋ではなくて結構なんです、山田自治会として一つ部屋を確保させていただくわけにいかないでしょうか。自治会の部屋として確保できれば、そこに老人クラブや体協など、様々な同様のものを集めることができますので、是非考えていただきたいです。また、老人クラブとしては、2年後に庁舎がこちらに移るときに、まずはそのような部屋を確保した上で、残りの部屋を配置する計画を立てていただきたいと思っています。

それともう一つ、コミュニティバスは運行していますが本数が少ないことと、朝もこちらで回送しますが、時間的にうまく合わないことがあります。年間にしたら5、6回だけですが、その日は山田地域内をコミュニティバスで一巡して集めていただいて、終わった後にもう一度回っていただく、それぐらいのことはこの地域としては配慮していただきたいです。旧市内などにつきましては、いろんな交通機関もあり大変便利ですが、ここは全く違いますので、そういう点を加味してご検討いただきたいと思います。

(市長)

山田地域の複合施設については、現在、鋭意、基本設計が進んでいますので、今のようなご意見を取り入れながら、老人クラブなども含めて自治会が自由に使える部屋や書庫スペースみたいなもの、書棚などを含めて皆さんの要望はたくさんあると思いますので、またお聞かせいただければと思います。

コミュニティバスにつきましては、今のようないい勝手が悪いという声が圧倒的に多いわけですが、今のご意見も使い勝手がよくなる一つの案として、どういう形が一番いいのか、行事があるときに困っているのであれば、その日だけは時間変更をして一円を回っ

て時間に合わせるなど、そのようなことができるのかも含めて検討させていただきたいと思います。

・先ほどの話の中で、なかなか定住する人が来たくても来られない、住むところがない、家がないという話がありました。山田地域にも市営住宅や戸建ての住宅、アパートが数件、余っているはずですが、それを売却して個人に与えたり、市営住宅やアパートについては安く入居できるように便宜を図るというようなことで、解決できるのではないのでしょうか。

また、牛岳温泉センターのところに木・MAMA というログハウスが 7、8 棟あります。その管理が大変ということであれば、土地付きで安く売却すれば誰でも買うと思います。そのようなことも考えていただき、人口減少が加速する中、こんなのあるよという話をすれば人も入ってくるのではないかと思いますので、ご一考いただきたいと思います。

あともう一つ、昭和 46 年の冬に牛岳温泉スキー場が開業しました。当時は一生懸命宣伝に奔走し、たくさんの方が来ましたが、今は人がとても少なくなりました。現状では職員のほとんどが定年退職した再雇用の人でそのほかにアルバイトがいる。本業でいる人もいますが、ほとんどアルバイトの人でリフトの点検整備、ゲレンデの整備など様々なことをやっています。そのようなことを考えると、やはり安全の面からも、もっと自由な人材を派遣していただきたいです。ちゃんとした点検整備をして初めて安全運行ができるので、そのあたりも考慮してください。

(市長)

定住や関係人口、半定住の人口などを増やして行くことは、非常に大事な観点です。市営住宅やログハウスなども含めて、考えさせていただきたいと思います。宣伝不足というのも否めないところですが、ここに定住するということのほかに週末だけ住むなど、今は様々なパターンがありますので、そういうことも含めて広く考えさせていただきたいと思います。

(企画管理部長)

牛岳温泉スキー場につきましては、この 9 月議会で外部の専門のスキー場を運営する会社から人材派遣を受けるということで予算をいただきましたので、今年度の半年間は今の体制に加えて、そのような専門の資格を持った人材を追加して運営に当たることにしておりますので、今のスタッフに追加で人材を配置することにしております。

※発言の一部を整理して掲載しています。(広報課)